

おとぎ話

▶ 2024. 1. 15 (月)

先生：「むかしむかし、あるところにおじいさんが住んでいました。」

園児A：「あれ～え？

おばあさんは、どしたの？」

先生：「ん！？

おばあさんは、いません！」

園児A：「そりゃ、へんだよ。

おとぎばなしというのは、

必ず、おじいさんとおばあさんがでてくるんだよ。

ももたろうとか、かぐや姫なんか…」

先生：「でも、おばあさんがいないおじいちゃんなんか、

世の中には、いっぱいおるでしょうが…」

園児A：「はあ…

そうなんですけど…、どうぞ。」

先生：「おじいさんは川へ洗濯に行きました。」

園児A：「あれ～っ？

せんたくにいくのは、おばあさんなんだよ。」

先生：「おばあさんがいないので、

おじいさんは自分で洗濯をしなければならんでしょうが。」

園児A：「うん、そうだけど…、どうぞ。」

先生：「おじいさんが川で洗濯をしていると、

そこに大きな栗が流れてきました。」

園児A：「あれ～っ？

ももが流れてきたんだよ。」

先生：「栗が流れてきてもいいでしょうが、

山には、栗の木なんかいっぱいあるし、

川に落ちたい栗もなかにはいるんじゃないの？」

園児A：「うん、そうだけど…、どうぞ。」

先生：「大きなすばらしい栗だったので、

おじいさんは市場で売ることになりました。」

園児A：「あれ～っ？

おじいさんは家にもっていき、これを包丁で切ると中から

桃太郎…？、いや、栗太郎が出てくるんだよ。」

先生：「市場で売ってもいいでしょうが、

高いお金で売れば、栗よりももっとおいしいものが買えて、

それを家にもって帰っていつまでもしあわせに暮らせるでしょうが…」

園児A：「うん、そうだけど…、どうぞ。」

先生：「ほれ、ちゃんと、おとぎ話の”落ち”になったがね。」

園児A：「うん…

おじいちゃんは、いつまでもしあわせに暮らしたんだ…

でも、おばあちゃんにも、いてほしかったなあ…」

先生：「うん、うん、

これでいいのです、おとぎばなしというのは…」

さて、おじいさんだけしか登場しないおとぎ話の訓話的意義がおわかりいただけましたか。

「でも、おばあちゃんにも、いてほしかったなあ…」という園児Aの最後のセリフですね。